

瓦谷山



瓦谷山だより

発行日 2015年12月吉日
発行人 (宗) 真光寺
岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
○お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://shinko-j.cocolog-nifty.com/news/>

vol.30

平成27年元旦撮影

ごあいさつ

真光寺の参道は、秋の深まる頃から新春にかけ、深紅の幟のぼりに彩られます。今年も多くの御奉納をいただき、誠にありがとうございます。幟にこめられた皆さまの願いはさまざまありますが、いずれも平和を抜きにして成り立つものではありません。間もなく改歳を迎えます。新しい年の安からんことを祈念すると同時に、少しでも平和な世の中になるよう、自らも努力を重ねていきたいと思っています。

本年の縁の会総会においては、シャンティ国際ボランティア会(SVA)「絵本を届ける運動」へのご協力を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで、百三十冊の絵本をミヤンマーの子供たちに届けることができました。本紙で紹介しておりますように、真光寺では、ミヤンマー語の絵本の作成にも協力しています。明年にはSVA理事としてミヤンマーの視察に行く予定です。この世の未来を決める子供たちに、情報を取捨選択し読み取る力がなければ、愚かさの連鎖を止めることはできません。そうした信念をもって、児童教育の普及に貢献していきたいと思っています。

さて、私は昨年十二月十日に曹洞宗千葉県宗務所所長の任を満了し、四谷東長寺の住持職も弟子に譲ることができて、すっかり暇になってしまいました。それまでは連日予定が入り、出張や研修旅行で留守にすることも多く、その合間をみては境内の整備も進めてまいりました。今から考えれば異常な状態であったと思う一方で、よくこなしたものだかと驚いております。

こうした生活を続けてきたおかげで、すっかり働き者になったようです。暇になったらずっと着手できずにいたことをぼつぼつ進めていこうと考えてはいたのですが、いざその時を迎えると、「何かしなければ」と追い立てられるように日々工事にのめり込んでしまいました。仏殿前の橋をかけ、寺務所の前には張り出し通路を作り、駐車場を整備、お寺の入り口の水路を直し、山門横の道路を広げ、旧庫裡を解体し、山の木を切り倒し、散策道を作り、挙句に新書院の建設と、改めて書き上げてみればずいぶんいろいろな仕事をしてきたように思います。

生活が一変したことに加え、年齢的なこともあるのでしょう、この間に心のバランスの乱れや体調の変化も感じましたが、一年が経過して、ようやく落ち着いてきたようです。忙しい時は「もっとゆつくりしたい」と思い、暇になると「何か仕事をしなくては」と焦るのですから、人間はないものねだりなものです。それに加齢が加わって、「昔はもつとできたのに」という自分への不満が募りますが、実際には昔もたいしたことはなくて、人間が過去を賛美しがちなのは、よかったことだけを記憶し、都合の悪いことは忘れる脳の特性によるものではないかと思っています。

仏教は心について実に多様な考察をしています。そうした仏教を学んできた僧侶なのに自分の心のバランスを取るのが難しいなんて、とも思いますが、心ほどつかみきれないものではありません。調子のいい時は実に堅固で自分をコントロールしていても、さまざまな困難に遭うと実に脆弱になってしまふ、それが「私の心」というものでないでしょうか。

体と同様に、心も栄養と運動を必要としています。さまざまな体験をしては考えることで心は鍛えられ、健康になります。私は真光寺を、心を鍛える修行道場に育てたいと考えています。連絡通路等残工事次第ではありますが、明年早々には新書院が完成致します。写経や坐禅も行うことができるようになります。年頭祈禱や様々な行事への多くの皆様のご参加をお願い致します。山内一同ご参詣をお待ちしています。



囲碁の会の方と坐禅中の住職

2、3、5、6月の七日法要の午後行事に合流するかたちで「坐禅会」を開催します。午前の法要には参加しない方、はじめて真光寺にお越しの方も参加できます。時間は午後1時から、送迎などは事務局にお問い合わせください。

住職 岡本 和幸
合 掌

行事報告

◇お寺掃除

真光寺では毎年六月と八月に定期的に寺掃除を行っています。草刈りの主役は檀家さん、お住まいの地区で三班に分け、当番の檀家さんは早朝より草刈り機のエンジン全開で、参道から山の奥まで、女性陣は、山頂周りの草取りをして頂き、約二時間で境内を綺麗にして頂いております。今年も猛暑の中、本当にありがとうございました。



急斜面でもグングン刈ります



作業終了『お疲れ様でした』

◇盆施食法要

八月二日（縁の会）・八月九日（檀信徒）

恒例のお盆の先祖供養、施食法要が行われました。大勢の方に参加を頂き、新しいお塔婆が立ち、墓地には新しい花が供えられ、毎年繰り返されるこのお盆の行事に夏を感じます。

写真下は御詠歌の講員さん方です、現在、男性二名・女性七名・僧侶四名、合計十三名で練習に励んでおります。興味のある方、心安らぐ御詠歌と一緒に唱えませんか？講員一同、ご参加お待ちしております。



御詠歌隊のみなさん

◇葬儀セミナー「葬儀」くもしものときのために

九月二十三日、お彼岸中日の午後に、第二回となる葬儀セミナーが行われました。前回と同様に葬儀までの流れなど、葬儀社『慈晃』の松田氏より解説がありました。

今後も、相続についてや改葬をテーマとして年二回お彼岸に計画してまいりますので、どうぞご参加下さい。

◇団参旅行（大雄寺参拝と湯西川温泉）

十月十八日～十九日 一泊二日で栃木県にある大雄寺様を参拝しました。大雄寺様は応永十一年（一四〇四年）に創建された曹洞宗の寺で、栃木県文化財の伽藍も数有り総門・禅堂・本堂はカヤ葺き屋根の建物でとても歴史を感じられるお寺でした。宿の湯西川温泉では、囲炉裏を囲んで、恒例のカラオケ大会で盛り上がり、檀信徒、縁の会一同、和やかな時間を過ごしました。ご参加頂きました皆様ありがとうございました。

平成二十八年の団参旅行は、三月に千葉県南房総日帰り旅行、九月に青森県恐山参拝を予定しております。仏と出会い、人と出会うお寺の旅です。是非ご参加お待ちしております。



縁の会総会報告

十一月三日 第五回縁の会総会を
開催いたしました。

■五回目となった縁の会総会。今年も好天に恵まれ、大勢のご参加となりました。回を重ねるにつれ、野菜直売所の野菜がすぐに売れてしまうことも知れ渡っているようで、開式を迎えた時点で野菜売り場は既に売り切れが出るようなにぎわいとなりました。

会計報告会では、住職より昨年度の会計について説明と報告が行われ、皆様のご支援の下での順調な寺院運営をご報告できました。

今年度の総会では午後より、参加者の方々にミャンマー（旧称…ビルマ）の子供たちへ絵本を送るボランティア活動にご協力いただきました。

今回私どもが協力したのは公益社団法人シャンティ国際ボランティア会というアジアの緊急支援と教育支援を行っている団体です。一九八一年より特にインドシナ地域の難民救済にあたってきた曹洞宗ボランティア会（SVA）という組織を前



今年は120名のご参加でした。

お昼は恒例のピクニック。レジャーシート持参の方、アウトドアチェア持参の常連の方も。今年は房総名物「さんが焼き」弁当！



身としていますが、当山の岡本住職は古くよりこのSVAの活動に参加、支援をしてきました。そして本年度より理事に就任し、このような機会

を設けることができました。

ミャンマーという国は二〇一一年十一月以降から民主化に向けて大きく変わりゆく国で、仏教徒（上座部仏教）が九十%を占める国です。後発発展途上国に分類されるミャンマーですが、経済発展が著しく、アジア最後のフロンティアと言われている。さて、その発展が著しい国ではあるのですが、子供たちのおかれた状況は過酷です。多民族国家、難民キャンプ、複雑な政治情勢のために、教育が満足に行われておらず、約半数の子供たちが小学校を修了することができません。そうした子供たちは社会的に不利な状況に陥り、経済発展に取り残された貧困層として固定されてしまうのです。

シャンティ国際ボランティア会では他の同様の国を含めて学校改善事業や図書館改善事業を行っています。が、今回は日本からも参加できる「絵



午後12時で野菜直売コーナーは隙間が目立ちます。

本を届ける運動」に協力いたしました。

このような国の子供たちは一生に一冊の絵本とも出会わないこともあります。私たち日本人が思う絵本の役目といえば情操教育や親子のコミュニケーションのツールのという側面が重視されますが、教育を受けることができない子供たちは注意書きがわからず危険地帯に足を踏み入れたり、薬を誤飲したりと命の危険に直結します。こうした子供たちに絵本を届け、教育の足掛かりとするのがこのプロジェクトの目的です。

絵本は日本の絵本を用います。この上にビルマ語のシールを切って貼るという単純な作業なのですが、絵本は著作物でアートですので、その貼る方には細かなルールがあります。見慣れている日本語ですから、注意深く見ないと日本語があることを見逃してシールを貼り漏らすこともあります。当日は一時間の作業時間となりましたが、皆様のご尽力により、一三〇冊の本をシャンティ国際ボランティア会に納めることができました。これからボランティア会の方の手直しを受けて、ミャンマーの図書館に配布される予定です。作業をされた方は最後に自分の名前をビルマ語でサイ



器用な方、そうでない方、みなさん一生懸命に貼ってくださいました。「ここはこうすればいいのよ」とコツの伝授で盛り上がります。

ンされたことかと思えます。きつと何年も、それこそ擦り切れるまで何度もミャンマーの子供たちに愛読され、シールを貼った方の名前と一緒に受け継がれていくことと思います。

今回、事前に絵本の調達資金としてシャンティへの募金をお願いいたしました。

絵本はビルマ語のシールと郵送費などの経費とセットで、一冊二二〇〇円の募金でミャンマーに本を送ることが出来ます。当日絵本をご準備しておく必要があるためにあらかじめ真光寺で絵本の予約をしておき、その内訳として募金を活用いたしました。

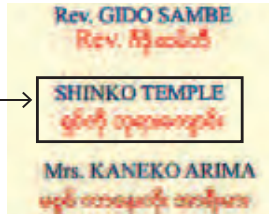
募金額 二二一、五〇〇円（絵本百冊分）

ご協力ありがとうございました。

また、真光寺ではビルマ語の絵本を作るプロジェクトを支援しています。日本語の上にシールを貼ってあるものは大事な本ではありますが、やはり仮の物です。一日も早く、ミャンマーの子供たちが自分たちの国の言葉で描かれた物語に触れることができるよう、支援を続けてまいります。



制作されたビルマ語の絵本。表紙にはいきいきとしたミャンマーの子供たちの姿が描かれています。



絵本の中表紙。絵本の制作メンバーとして真光寺が記名されています。

～縁の会事務局よりご連絡～

樹木葬墓苑お参りのご案内

●墓苑内での火気の使用は山火事の恐れがありますので、所定の場所を除き線香を含めご遠慮ください。

●供え花を植え付けする場合、植えつけることのできる範囲は碑の周囲に限り、またその種類は一年草に限ります。これを超えた場合には撤去いたします。**花が隣の区画にはみ出すケースが見受けられるようになりました。ご注意をお願いいたします。**

●墓地の除草は土の流出につながります。軽めの除草にしてください。

●発生したゴミは原則持ち帰りください。草花は土をよく落したものであれば寺で処分いたしますので寺務所にお持ちください。

樹木葬墓苑の管理

●通年、下草の刈取りを行っています。天候により管理工程以上に繁茂する場合がありますのでご理解のほどお願いいたします。

●十年目を過ぎて樹木の強剪定、伐採が始まりました。森林管理の必須事項ですのでご理解のほどお願いいたします。

●種が飛んできて大きくなった木、病樹、規定に反した植樹等、区画使用者に通知することなく伐採いたします。ご理解のほどお願いいたします。

害獣対策

●スズメ蜂が墓苑内のいたるところに出現します。十分に気をつけてください。刺された場合には速やかに寺務所にお越しくください。

●カラスによるいたずらが増えています。墓参の際にはご注意ください。

際にはご注意ください。

●イノシシによる荒らしが激増しています。墓地周囲に電気柵をはってありますが、隙間を通る場合もあります。墓参の際にはご注意ください。荒れた場合には速やかに修繕するようにしておりますが、ご理解をお願いいたします。

●アライグマ、ハクビシンが碑を動かす場合があります。発見した場合は速やかにもとに戻していただきます。ご理解のほどお願いいたします。

送迎について

●送迎場所、送迎時間につきましては、都度調整の上、乗りあいでのご利用をお願いしております。個々の細かなご希望に添えない場合も多々ございますので、あらかじめご了承の上、ご利用をお願いいたします。また、バスターミナルとJRを巡回する都合上、お待たせする場合がございますので、ご理解のほどお願い申し上げます。

●送迎をご予約された方が、現地で職員と出会えないという場合があります。間違いの可能性もありますので、そうした場合にはお寺までお電話ください。速やかに対応いたします。また、現地での調整のため、携帯電話をお持ちであれば、ご予約の際にその電話番号もあわせてお知らせください。

●法事などの団体での送迎は施主様でとりまとめの上、お申し込みください。

ご理解とご協力賜りますよう

お願い申し上げます。

上総自然学校

お米作りの一大イベントでもある稲刈りも無事に終わり、今年はおよそ三千三百キロのお米を収穫できました。また、お米作りや自然観察会などのイベントに述べ四五〇名程の方にご参加いただき、今年も賑やかな自然学校となりました。



稲刈りの様子

上総自然学校のイベントには大きく分けて4つの種類があります。①お米作りは、稲の苗作りから畦塗・田植え・草取り・稲刈り・収穫まで、お米作りの一通りの作業を体験します。十月の収穫祭に参加いただいた方には今まで参加いただいた回数×1kgのお米を感謝米として進呈しています。②自然観察会では春は巨木、夏は昆虫といったようにその季節にしか見る事のできない自然の表情を感じることができます。③手作りイベントではヨモギ餅、干し柿など昔から伝わる季節ならではの知恵を学びます。④山の整備では植樹や里山の遊歩道作りなどを行います。

これからは今まで行っていたこれらのイベントを充実させると共に新しい事にも挑戦して行く予定です。年間を通して、季節毎のメニューを体験することによって山の恵み、田んぼの恵み、またそれらが繋がり大きな循環を維持していることを体験を通して実感することができ、そんなイベントにしていけたらと思っています。

来年も多くの方々のご参加お待ちしております。
(糸田)

平成二十七年米販売

上総自然学校では、里山にある段々田んぼでお米を育てています。水は山から湧き出る清水と天水のみ、肥料は井内牧場の自家製堆肥のみを使用しています。田んぼでは農薬は使用していませんので、様々な生き物たちと一緒に育ったお米です。一人でも多くの方にお求めいただけますように、価格を改定いたしました。例年に比べ、一キロ当たり百円ほど安くなっております。収益金は里山再生活動費に充当させていただきます。
ご注文を心よりお待ちしております。

【品種】	こしひかり
【農薬】	いもち病予防の種子消毒のみ
【肥料】	井内牧場の牛糞堆肥のみを使用
【精米】	一時間かけて低温で自家精米
【価格】	二キロまで 玄米 五百円 / kgkgkgkg
	二キロ以上 白米 五百五十円 / kgkgkgkg
	三キロ以上 玄米 四百五十円 / kgkgkgkg
	三キロ以上 白米 五百円 / kgkgkgkg

☆玄米の残留農薬検査の結果(自主検査)
二百五十項目の農薬 検出せず(四年連続)

☆玄米の放射線測定結果(自主検査)
ヨウ素・セシウム¹³⁴・セシウム¹³⁷ 検出せず
(検出限界値 1ベクレル/kg)

☆収益金は「上総自然学校」の里山再生活動費に充当します。

【ご注文方法】

①氏名 ②住所 ③電話番号 ④白米か玄米 ⑤数量
(二キログラム以上一キロ単位)
を明記し、ファックス・電話・メールにてお申込みください。(連絡先は最後のページに記載あり)

イベント日程

- 『七草粥づくり』◇
・ 一月五日(火) 十三時半～十六時
- 『餅つき&椎茸の菌打ち』★
・ 一月二十三日(土) 十時半～十六時
- 『こま豆腐づくり』◇
・ 一月二十九日(金) 十三時半～十六時
・ 二月十九日(金) 十三時半～十六時
- 『里山の道作り』◇
・ 二月十一日(木) 十時～十六時
・ 二月二十日(土) 十時～十六時
- 『自家製ざる豆腐づくり』◇
・ 二月十四日(日) 十三時半～十六時
- 『野鳥の観察会』◇
・ 二月二十一日(日) 十三時半～十六時
- 『花巻寿司(太巻き)づくり』◇
・ 二月二十七日(土) 十三時半～十六時
- 『植樹&横井戸修復』★
・ 三月五日(土) 十時～十六時
- 『お花見トレッキング』◇
・ 三月二十六日(土) 十三時半～十六時

＜参加費＞

各イベント名の下にある記号です。

- ★大人二千円/小学生千円
- ◆大人千円/小学生五百円
- ◇五百円

※未就学児無料
※すべて保険代込

＜申込み方法＞

①氏名 ②住所 ③連絡先 ④生年月日 ⑤血液型
⑥緊急連絡先(ご本人様が怪我をした時などの連絡先)を明記の上、メール・ファックス・電話でお申込みください。
(連絡先は最後のページに記載があります)

新書院建設報告

前回の建設報告では1F住居部分のコンクリート打設工事までをお伝えしました。今回は2F書院部分の上棟までをお伝えします。

1F部分は一発勝負のコンクリート打ち放し仕上げでした。打設後、型枠は3日程で解体し、その後一週間ほど養生の期間をおきます。型枠を外すまでは壁の仕上がり具合がどのようになっているかというのは、外からは全く分かりません。ですので関係者一同不安と緊張で一杯でしたが、いざ型枠を外してみるとコンクリートは綺麗に出来上がっておりまして。



型枠を外した1F部分

すまでは壁の仕上がり具合がどのようになっているかというのは、外からは全く分かりません。ですので関係者一同不安と緊張で一杯でしたが、いざ型枠を外してみるとコンクリートは綺麗に出来上がっておりまして。

養生期間中に上棟の準備をします。上棟とは、建物の構造物の中でも一番高い位置に取り付ける『棟木』を設置する工程のことです。材木を上にあげたり組み立てるときに欠かせない足場を事前に組んでおきます。



足場を組んで上棟に備えます

上棟は通常1日で完了しますが、新書院は2日間かけて上棟しました。柱が立ち上がり、形が分かるようになりますと建物が出来てきたと実感すると同時に、思った以上に大きいなとか、想像していたよりも小さいねなど、観る人によってさまざまな感想があるようです。街中でも上棟したばかりの、構造物だけの建物とときどき見かけますが、この状態の時の方が不思議と力強さを感じます。



上棟が完了した新書院

お寺の建築物ということで各部位には一般の住宅にはあまり使われない加工が数多く施されています。昔から伝えられてきた棟梁や大工さんたちの知恵や経験に裏打ちされた技術を直に目にする事が出来るということがとても感動的でした。

七月二十二日、夏の真っ青な空のもと、檀家総代はじめ、役員の方々、工事関係者の方々にご参列を頂き、無事に上棟ができたことへの感謝と、今後の工事安全を祈願し、仏式にて上棟の儀を執り行いました。皆様が気持ちよくお使いいただける書院完成を今しばらくお待ち下さい。



7月22日 上棟式



米と塩とお神酒をまきます

ご寄進者ご芳名

金壺拾萬円 宇田川 弘様
金壺拾萬円 加藤 洋子様
金伍 萬円 小山 奈美様
金伍 萬円 吉田 月英様
金参 萬円 真殿 隆夫様
金参 萬円 本田 博昭様

平成二十五年〜平成二十七年寄進者

ご寄進いただき心より御礼申し上げます。皆様からの「ご寄進」は諸堂建立に充てさせていただきます。食堂の寄進芳名単にお名前を記し、永く寺録に残させていただきます。

続・終末儀礼と、葬送について

住職 岡本和幸

真光寺の米作り

真光寺の米作りは三年目に突入しました。冬の間の開墾作業で新たに四枚の田んぼを増やし、今年は八枚の田んぼを作っています。総面積は約四反、千二百坪程にもなりました。耕作面積の拡大によって、いよいよ機械化が必要になってきたので、今春には中古の耕運機とトラクターを購入しました。だんだん趣味の域を脱して、本格的な営農へと進んできています。

私たちの田んぼ作りは、地元の農家の方々からあまった苗をいただいて行っています。だいたい一反あたり苗箱が二十枚必要なので、今年は八十枚も必要になりました。今年は天候不順がつづき苗作りを失敗する人が大勢いて、営農家自身も苗を融通しあっていたので集めるのが大変でした。来年は苗作りから始めないとうまくいかないかもしれません。

最近カルガモの夫婦が私たちの田んぼに入り浸っています。私たちの田んぼを餌場になっているようです。子供が生まれるようなことになると自然カルガモ農法ができるのではないかと期待しています。鴨類は実は毎年新しい相手を見つけているのですが、このつがいを観察していると、おしどり夫婦という言葉が生まれたこともよく理解できます。仲がよさそうにいつも二匹で行動してい

るのです。

五月いっぱいをかけて田植えが終わりました。今年はどんなお米が取れるでしょうか。秋が楽しみです。

あの世はあるのか

前号で終末儀礼について書かせていただきました。思いのほか反響が大きく、何人もの方からお手紙を頂戴したり、ご相談を受けたり、お声をかけていただきました。東長寺の寺報に文章を書くようになって二十年になりますが、これはどの反応があったのははじめてのことでした。やはり身近な話題には皆さん関心があるのだと思います。そこで今回は再び終末儀礼について考えてみます。

いつも申し上げるのですが、仏教ではあの世については「無記」という立場をとっています。あの世から帰ってきた人はいないから、あるかないかはわからないし、それ以上にそういう意味のないことは考える必要がないから言及しないというわけです。

私自身も死んでしまったらそれで終わりで、私の時間は止まり、見ることも聞くことも、考えることもできない、いわゆる無になると思っています。ただ、あの世があると考えた方が豊かに生きられるのではないかという気もします。あの世はあると思っていて、実際に死んでみたらなかったというのならば何もわかりませんから損はありませんが、ないと思っていたのに死んでみたらあの世があったとしたらもう取り返しがつきません。閻魔大王の前にひざまづいて、この世の行いをあれこれあげつらわれ、「こういう悪事を働いたお前の判

決は無間地獄行きだ」などと言われて後悔するくらいなら、最初から地獄行きは避けるように生き方が、この世を幸せに生きていけそうな気がします。あの世などという誰もわからないものについて、のさまたげな伝承は、人がよりよい生き方をしていくための指針となってきました。私はあの世はないと言い張る人は、あの世があると言い張る人と同じくらい愚かしいと思っています。

有時

道元禪師が書かれた『正法眼蔵』の「有時」という巻を読むと、時とは「有る」ということだと書いてあります。諸行無常の世の中ではすべての存在は、条件と調和を変化させながら結び合ったり離れたりにしています。つまり縁起して生起したり、消滅したりしているのです。時が止まることなく流れているからそうなるわけで、時が流れることで生起し消滅しているともいえます。時が止まれば何も生起しないから無となります。つまりは「有る」ということが生じるためには必ず時が流れていなければならぬわけです。

神をたてる宗教なら、人の次元と違うところで神が時を止めることは可能です。しかし神でさえ天地自然の法則に従って存在すると考える仏教では、時間が止まれば神という存在も無となります。時間が止まればすべてが存在できないわけです。それはいわば時間そのものが存在ということですから、過去なくして現在はありません。時間の積み重なりの中で縁が生じた結果として現在があるのです。こういう考えかたからいけば、「私」という存在が、時間が経過しなくなる瞬間、すなわち「死

を迎えたとき、「無」になります。しかし「私」以外の存在には時は相変わらず流れていきます。

諸法無我を説く仏教にあつては「私」という存在そのものがありえないわけですから、時が流れる限り存在は形を変えて存在しつづけるということになります。つまり観念で考える「私」は「無」となつても、その存在はお骨として、あるいはその他のものに形を変えながら有り続けるわけです。

仏教はこうした天地自然の法則を明らかにするとともに、その中に生きる人間についても冷静に分析しています。私たち人間は、宇宙の真理である時間が存在であるという天地自然の法則を、素直に受け止めることができない力を持つに至りました。それはすばらしいことで、未来を予測して行動したり、過去を記録して教訓としたりして、文明を構築してきたわけです。

しかし同時にこの力が人間の苦しみの原因にもなつてしまいました。人はしばしば時間の流れに抗つて思索をします。何年も前の小さな出来事にこだわったり、都合の悪いことがらは忘却という作用により跡を残さないようにしています。忘れることは人にとって非常に大切なことですが、同時に忘れてはならないことまで忘れます。さらに都合のいい過去さえ創造してしまいます。未来が続くことは存在の道理ですが、ときには未来がないかのように絶望することもあります。ここに人の苦悩の原因があると仏教では説くのです。

道元禪師は「生は一時の位」といわれています。生きているということは時間の流れの中の位置、あるいは場所、あるいは形といった意味あいです。そして「死も一時の位」と、つまり時間の流れの中

の位置であるとお示しになっています。生から死へと移行していると考えるのは人間の思念の中で、天地自然の法則から考えれば、いずれも時間の中の一つの位相だとお説きになっているのだと思います。

人生は時とともにさまざまな形を経ながら進んでいきます。たとえば病氣になったとすると、「病氣」という形を経て、その後の人生が変わってきます。私たちは病氣以前の自分の姿を美化して、なんとか元に戻ろうとします。しかし病氣以前には決して戻ることはできません。そのかわり病氣になつたということを経験として、これまでとは違う縁に出会うことができます。たとえば病氣になつてはじめて人の優しさを実感したということもあれば、家族の絆が強くなつたという場合もあります。時間を戻せないのなら、過去をしつかりと受け止めて、今を大切に、未来に向かうべきです。

老いるということも同じことだと思ふのです。誰しも老いてゆきますが、過去をいかに受け止めて、今という時にしっかりと足を踏みしめて生きていくか、過去を美化しないで、老いという一時の位をどう生きるかを考え、今の自分が未来に向かつてできることを行う姿勢を保ち続けることが、おそらく人が良い人生を歩むためにもっとも大切にするべきことなのだろうと思います。

あの世も人の未来の姿

これまで生きてきた人生によって、極楽行きになつたり、地獄行きになつたりするということは、おそらく人間が作り出した、未来に向かつていきるための智慧なのだと思うのです。死んでしまえ

ば終わりだと考えたなら、最期の時まで未来に向かつて生きることは難しいはずで、あと何日とカウントダウンをするだけでは心の安定はままなりません。しかしあの世があると思うと、あの世での人生のために、今のうちにできるだけのことをやろうという気持ちになります。あの世観は道徳のために必要という人もいますが、それは一面でしかありません。あの世は良い人生を送るために必要なのです。葬儀で自分の人生が止まつてしまふように考えるより、いかにしてあの世をよりよく生きるかを考えた方が得策ではないでしょうか。あの世があるとしたら、皆さんの終末儀礼はどのようなものにすべきでしょうか。

一昔前の終末儀礼には、「自分が死んだ後もみんな仲良く暮らしてくれよ」という逝く人の願いがこめられていたように思います。葬儀には喪主を立てますが、亡くなつた方が施主となり、施主の遺産を使い、その代わりに人々に振る舞いをして、故人の追善とし、故人の功德を積む行いをするという考え方で葬儀を営んでいたわけです。喪主は故人の代わりをすることで、世間に一人前と認められ、その後もお付き合いを続けていく必要がある人になります。葬儀は残されたものの成長にも欠かせないものであつたわけです。そういうことも踏まえた上で、皆さんの葬儀をどう営むか。そのところを、よく考えていただきたいと思うのです。死がただ単に無に帰るものではないとしたら、気に入つた人だけに集まつてもらい、故人の好きだった音楽を流すような今ふうの葬儀も、形骸化したという批判を受けがちな従来の葬儀とさして変わらないのではないかと思います。いかがで

平成二十八年年回表

百	五	三	三	二	二	十	七	三	一
回	十	十	十	十	十	回	回	回	周
忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌
大	昭	昭	昭	平	平	平	平	平	平
正	和	和	和	成	成	成	成	成	成
六	四	五	五	二	六	十	二	二	二
年	十	十	十	年	年	年	年	年	年
	二	五	九			六	二	六	七
	年	年	年			年	年	年	年

しょうか。あの世はあると考えれば、この世での死は連続する時間の流れに打たれた一つの点ということになります。その中でどう生きるのかという問いへの答えを示し、また残された者にはその後のそれぞれの人生の糧となるものを残せるような死のあり方、儀礼のあり方を模索してゆきたいと思うのです。

この文章は平成十八年七月に東長寺「萬亀」にて掲載されたものです。

南房総 春の花摘みバスツアー

みんなで行こう！
真光寺の団参旅行

今回の団参旅行は春の房総、花摘みの旅を企画いたしました。途中、鋸山で有名な日本寺を訪れたのち、日本三石塔寺のひとつで「波の伊八」や多くの国指定重要文化財を有する石堂寺を参拝いたします。昼食は館山で房総の地魚料理をいただく予定です。盛りだくさん春先取りの房総周遊の旅となります。日帰り旅行ですので初めての方も是非お気軽にご参加ください！



行事予定

仏像彫刻体験教室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第1・第3水曜日
13時30分～16時30分
費用：3,500円 / 1回参加
場所：真光寺（参加者が3名以上で開催となります。）

仏師の方にご指導頂き仏像を彫っていきます。教室では初めての方でもご参加いただけます。それぞれの方に応じたペースで、除々に立体に取り組みます。どなたでもご参加頂けますので興味のある方は是非ご連絡ください。



丁寧に指導いたします

精進料理と聖典講読の会

日時：1月27日・2月22日・3月30日・4月27日
午前11時～午後2時半
費用：3,000円（昼食付）
場所：真光寺
テキスト：普勸坐禅儀

住職による解説の後、一緒に食事をして、午後は坐禅や写経をいたします。どちらも老若男女問わず気軽にご参加申込み下さい。



住職が詳しく解説いたします

行事予定

修証会年頭祈禱

《檀信徒》

日時：1月3日（日）14時より
新年の安全・厄除け・諸願成就を祈念し大般若
祈禱法要を行い、法要後には余興を行います。

山門春彼岸法要

《檀信徒》

日時：3月20日（日）14時より
春のお彼岸供養を行います。法要後には余興を
予定しています。

花まつり法要・檀信徒総会

《檀信徒》

日時：4月3日（日）11時より
お釈迦様の誕生をお祝いします。法要後に檀信徒
総会を行います。

ご詠歌練習日

1月	12日・26日	4月	12日・26日
2月	9日・23日	5月	10日・24日
3月	8日・22日	6月	14日・28日

時間 19時半より（5月以降は20時より）
※ご詠歌はどなたでもご参加できます。気軽に
お問い合わせください。

紫陽花の会

日時：1月28日（月）	4月28日（木）
2月23日（火）	5月25日（水）
3月31日（木）	6月30日（木）

午前11時より午後2時半頃
費用：1,000円 昼食付（精進カレー）
境内や樹木葬墓地の管理に、ご協力をいただく会
です。午後は、畑仕事や味覚も楽しい企画を考え
ておりますので、是非ご参加下さい！昼食の精進
カレーも大好評です。
※ご出席いただく場合はご予約が必要です。
※送迎有り（次項午前の時間）

真光寺囲碁の会

日時：3月9日・10日
6月13日・14日 14時から翌日13時30分解散
費用：8,000円 1泊3食
静かなお寺で存分に囲碁を打って頂く会です。初心者か
ら有段者までいろんなレベルの方がいらっしゃいますの
で挑戦してみてもは。日帰りのご参加も可能ですのでお問
い合わせください。
※送迎有り（次項午後の時間）

縁の会春彼岸法要

《縁の会会員》

日時：3月21日（月）11時より
縁の会合同での春彼岸法要を行います。
**午後は弁護士の方を招いて相続セミナーを開催い
たします。** 弁当付。
※ご出席いただく場合はご予約が必要です。
※午前のみ、午後をみの出席もできます。
※送迎有り（次項午前の時間）

戒名を考える会

《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：2月25日
6月8日 午前11時より午後2時半頃
費用：3,000円（昼食付） 定員：20名
戒名を考えることは、人生を振り返ることです。午前中
は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精進料理を頂
きます。午後は住職指導のもと、実際に戒名を考えます。
考えた戒名は後日の授戒式にて正式に住職よりお授け
し、位牌に刻銘の上、観音堂にご安置します。
※ご出席いただく場合はご予約が必要です。
※送迎有り（次項午前の時間）
※持ち物：漢和辞典

七日法要

《縁の会会員》

日時：1月9日（土）11時より授戒式・月例供養、昼食は餅つき、午後は年頭祈禱法要・お焚きあげ供養
※前年の御札や御守、お正月のお飾りをお持ち下さい。合同でお焚きあげ供養をします。
2月7日（日）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
3月7日（月）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
4月7日（木）11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は花まつり法要と植樹祭
5月7日（土）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
6月7日（火）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
※ご出席いただく場合はご予約が必要です。午前、午後をみの出席もできます。 ※送迎有り（次項午前の時間）

“お寺で初詣” 年頭祈禱法要のご案内（元日～3日）

新年の安全・厄除け・諸願成就を祈念して個別のご祈禱を承ります。

右写真の木札を作成いたしますので、来山前にお電話等でお申し込み下さい。事前申込みが無い場合でもお受けできますが、お待たせすることがございます。

受付時間 午前9時～午後4時まで15分刻み（元日～3日 3日は正午まで）

法要時間 約15分

祈 禱 料 3,000円～5,000円程度

願 意 木札に書き入れます、2つまでお選びできます。

- ①家内安全 ②諸災消除 ③諸願成就 ④如意吉祥 ⑤交通安全
⑥合格祈願 ⑦厄除守護 ⑧身体健全 ⑨当病平癒 ⑩身体堅固
⑪良縁祈願 ⑫安産祈願 その他、ご希望に応じてご祈禱いたします。

前年の御守、お札等がある方（当山以外の御守でもかまいません）はご持参下さい、お焚き上げいたします。



御仏供米
よろずのことに良い

ランドセル御守・ミニ御守
お孫様の交通安全に



交通安全
反射ステッカー

交通安全
御守



木札

送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・上り電車の方（君津発千葉行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時07分着
- ・下り電車の方（快速君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時30分→袖ヶ浦BT10時15分着
- ・横浜発9時30分→袖ヶ浦BT10時09分着
- ・川崎発9時25分→袖ヶ浦BT10時14分着
- ・新宿発9時20分→袖ヶ浦BT10時18分着

【平 日】

- ・品川発9時25分→袖ヶ浦BT10時10分着
- ・横浜発9時30分→袖ヶ浦BT10時09分着
- ・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時04分着
- ・新宿発8時55分→袖ヶ浦BT 9時53分着

□お車の方

10時40分頃までにお越し下さい。

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・上り電車の方（快速逗子行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時06分着
- ・下り電車の方（千葉駅発木更津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時02分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時45分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時39分着
- ・川崎発12時00分→袖ヶ浦BT12時49分着
- ・新宿発11時55分→袖ヶ浦BT12時53分着

【平 日】

- ・品川発12時15分→袖ヶ浦BT13時00分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時39分着
- ・川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時34分着
- ・新宿発11時55分→袖ヶ浦BT12時53分着

□お車の方

13時10分頃までにお越し下さい。

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)